

中学部の教育課程について

中学部では、これまで育まれてきた生徒の自主性や主体性を大切に、人とかかわりながら安心感や自信のもてる生活づくりをします。そして一人一人の特性や興味関心・教科の力などに応じた学習を行います。その中で生徒が存分に力を発揮し、達成感や満足感を味わい、自信を深め、人の役に立つ喜びがもてるように支援していきます。

中学部で培われた力が高等部に受け継がれ、卒業後の自立と社会参加に結びついていくことを願い、教師も生徒と共に精一杯活動していきます。

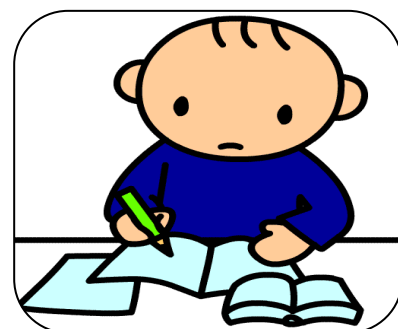
- 1 教育目標
生徒一人一人が特性や教育的ニーズに応じた学習活動や幅広い生活体験を行うことによって、生活の自立を目指すとともに、豊かな人間関係や社会性が育つ。
- 2 教育課程について
 - 朝の会・帰りの会
朝の会では日課を確認し活動の楽しみや見通しをもつことで、安心感をもち、主体的に行動しようという意欲が高まります。帰りの会では一人一人の成果を確かめ、明日の活動への期待がもてるようにします。どちらも、一人一人がそれぞれの役割を果たす大切な時間と位置づけています。
 - 朝の活動
朝の会までの時間、それぞれの生徒の自立活動の課題に合わせ、ボール運動やダンスなど体を動かす活動や、着替え・排泄といった基本的な生活習慣の確立に向けた活動を行います。
 - 保健体育
体を使う楽しさを知り健康的な体をつくることをめざして、各学年単位を中心に行っています。また、部全体でも、一定の期間にそれぞれねらいを定めて、短距離走、水泳、グループ別体育(ボール競技・サーキット・マラソン等)を行います。
 - 生活単元学習
生活のテーマに沿って主体的・実践的・体験的な活動を集団で繰り返し、複数の教科の力や生活能力を伸ばす学習です。
(例) お店屋さんを開こう (1年) 陶芸名人になろう (2年)
木工名人になろう (3年)
 - 作業学習
作業を通して働くことの大切さを学びます。作業班は、手芸班、粘土班、木工班で、学年ごと編制しています。2学期から作業学習を行い、「学校祭」での販売を大きなめあてとして活動を進めています。
 - 個別学習
「ことば」や「かず」などの認識力や表現力を高める学習、健康的な生活をおくるための体づくりをする学習、自立活動にかかわる学習など、個別の指導計画に示された一人一人の指導目標や課題に沿った内容を、系統性や継続性を大切に考え進めていきます。
 - グループ学習
学年をこえて生徒の課題や適性に応じてグループを編制し、集団で学習を行います。人とかかわる力やコミュニケーション能力を伸ばすこと、身体にかかわる自立活動の課題に取り組むことなどをねらいとしています。

○音楽 音楽に親しみ、楽しくのびのびと自己表現できる時間です。季節や行事の歌、ダンス、パネルシアター、楽器を使った活動等内容も豊富で、曲に合わせて身体表現したり、歌を歌ったりします。

○生徒会 自己選択や、自己決定の力を育てる大事な機会として生徒の自主性を重視し、学年の独自活動も大切にしています。各委員会（運営委員会・交流委員会・図書委員会・選挙管理委員会）の活動に取り組んだり、生徒会の行事を通して様々な活動をしたりする中で、より主体的な活動の経験をする場でもあります。

○交流 地域の方との交流を行い、楽しみながら相互理解を深める機会として大切にしています。

○部集会 月初めに部全体で体育館に集い、月の予定の確認や、生徒会などの連絡をします。また、特技や好きなことについて一人一人アピールをしたり、いくつかのグループを作って発表をしたりするなどのいろいろな活動を行っています。



3 主な行事（本年度の内容）

| 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
|---|---------------------------------------|------------------------------------|
| 新入生歓迎会（生徒会） 体育参観（部） 日帰りバス旅行（1年） 宿泊学習（宿泊）（2年） 修学旅行（宿泊）（3年） | 学校祭（全校） 生徒会選挙（部） 校外学習（進路）（1～3年） | 新年会（部） 音楽学習発表会（部） 3年生お別れ会（部） |

上記以外にも学年の計画に沿って校外学習（お楽しみ活動、高等部販売見学等）を行うこともあります。

4 配慮していること

- 支援にあたる際には、個別の指導計画をふまえ生徒の課題や支援のポイントを把握し、関わる職員同士が共通理解の上で支援にあたります。その作成にあたっては本人、保護者のニーズを的確にとらえ、学級、学年で十分に検討し、定期的に課題についての見直しを行います。
- 性の学習、進路の学習については、3年間を見通して系統的に進めるようにします。
- 自立活動の充実のため、保護者との連絡を密にして、職員間の情報交換や討議を積極的に行うとともに、医療・訓練機関等とも連携を図り、よりよい支援のあり方を探っていきます。